

電子化コミュニケーションブックについて

E1226 佐竹 史

(指導教員：鶴川 義弘)

1. はじめに

コミュニケーションブック¹⁾は自閉症や言語の発達に遅れのある障害児が相手に自分の意志を伝えるために使う絵カード・写真カードをまとめた手帳である。

新学習指導要領になり、ICT活用が再度見直されている中、教師がICT機器を教材として使うことが求められてきている。そこでコミュニケーションブックを教師が自分で作り、活用できるICT教材として「電子化コミュニケーションブック」を作成することにした。



図1 コミュニケーションブック

2. 電子化コミュニケーションブックについて

電子化コミュニケーションブックは据え置き型のパソコンではなく、タブレット型PCやスマートフォン、ポータブルメディアプレーヤーで使えるものを作ろうと考えた。これらの機器は画面を指でタッチするだけで操作ができるため、障害がある児童でも簡単に扱うことができ、持ち運びに便利で、外出先で使うのに適している。さらに、絵カード・写真カードを表示しながら、音声が出るものにし、言葉が話すことができない児童の代わりに話す機能をつけようと考えた。

3. 作成方法

コミュニケーションブックのデータとなる部分は音楽プレーヤーiTunes²⁾で作成した。音声はQuickTimePlayerを使い、自分の声を録音した。絵

カードの部分はフリー素材を使った。

iTunesに音声ファイルを取り込みし、mp3バージョンにすることで曲として登録する。その後jpegで保存した画像を音声のオプションのアートワーク部分に挿入する。これで音声を再生しながら、絵カードが表示できるようになった。作成した音声の曲名やアーティスト名を編集し、グループ分けを行うことによって、話す言葉を表示可能にした。

iTunesで作成したことにより、iPad、iPodにはもとより、その他のAndroid携帯等のミュージックプレーヤーにもSDカード経由で取り込むことにより使用することができる。



図2 電子化コミュニケーションブック(Android携帯)

4. 今後の予定

今後は絵カードの画像、音声の種類を増やし、オプションの整理を行う予定である。また、一般公開し、使ってもらえるようにしたい。

5. 参考文献

1) コミュニケーションブック

<http://www.niji.or.jp/home/xicczt/page8/page.html> (平成23年11月アクセス)

2) iTunes

<http://www.apple.com/jp/itunes/> (平成23年11月アクセス)